

32 ハックスリの英文・比較骨学図譜

(一八六四年)について

松尾 信 一

ダーウィンのブルドックと名のつた進化論の強力な支持者であったハックスリ(Thomas Henry Huxley 1825-95)は『種の起原』一八五九年の五年後に、動物進化に基づく“An Elementary Atlas of Comparative Osteology.” London & Edinburgh 1864 (比較骨学図譜)を刊行している。本書は『解剖学図書目録』一九五〇年日本解剖学会にも記されていない。

本書のサイズは三一・四×三八・六センチで、B4判より横幅の広い型の大判の一冊本で、石版図が一二図版あり、人を含む霊長目、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、円口類に至る脊椎動物の各綱に及んでいる。とくに、脊椎動物の頭骨、前肢骨や後肢骨、脊柱などの図による比較が記してある。解剖図も優れている。図はホウ

キンス(Waterhouse Hawkins)によって描かれている。

第一図版では普通の家畜の頭骨の比較として、犬、馬、羊、豚の背面(上面)図、腹面(底面)に歯付の図、下顎骨付側面図、縦断面図などによる比較図がある。歯式は犬 $\begin{pmatrix} 3 & 1 & 4 & 2 \\ 3 & 1 & 4 & 3 \end{pmatrix}$, 42、馬 $\begin{pmatrix} 3 & 1 & 3 & 3 \\ 3 & 1 & 3 & 3 \end{pmatrix}$, 40、羊 $\begin{pmatrix} 3 & 1 & 3 & 3 \\ 3 & 1 & 3 & 3 \end{pmatrix}$, 40、豚 $\begin{pmatrix} 3 & 1 & 4 & 3 \\ 3 & 1 & 4 & 3 \end{pmatrix}$, 44) となっている。

第二図版では、人、オランウータン、バアボーン、ホエザル、リスザルの頭骨の背面図、腹面図、下顎骨付側面図、縦断面図などによる比較図がある。この図で人、類人猿、旧世界猿、新世界猿などを比べることが出来る。この頭骨図には進化上の問題の切歯骨(前顎骨 Premaxilla)や犬歯の差などが明示されている。歯式は人、オランウータン、バアボーンとともに $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 2 & 3 \\ 2 & 1 & 2 & 3 \end{pmatrix}$ 、ホエザルとリスザルは $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 & 3 \\ 2 & 1 & 3 & 3 \end{pmatrix}$ となっている。

第三図版は、野兔、テングクネズミ(モルモットともいふ)、ダチョウ、鶏胚、カメ、コイなど、哺乳類、鳥類、爬虫類と魚類の頭骨の比較図である。

第四図版は、ワニ、トカゲ、ヘビ、サイレン(両生類)、すなわち、爬虫類と両生類の頭骨の比較である。ここで

は後頭骨後頭顆は二個存在することを図示している。ちなみに、後頭骨後頭顆は哺乳類は二個、鳥類は一個、爬虫類は一個、両生類二個である。

第十図版は哺乳類の手骨格図である。人、ゴリラ、オランウータン、クモザル、マーモセット、キツネザル、クマ、ライオン、豚、サイ、牛、馬の前肢の骨の比較図である。

第十二図版は哺乳類の足骨格図である。人、ゴリラ、チンパンジー、オランウータン、クモザル、マーモセット、キツネザル、クマ、ライオン、豚、サイ、牛、馬の後肢の骨の比較図である。

哺乳類の前肢と後肢の指の基本数は五である。人や猿などの霊長目、クマは前肢、後肢ともに五本、ライオンは前肢五本、後肢四本、豚は前肢、後肢とも四本、サイは前肢、後肢とも三本、牛は前肢、後肢とも二本、馬は前肢、後肢とも一本である。結局、指の進化(応化)では、馬が頂点に位置している。

第九図版はコウモリ、イルカ、カモノハシ、ワシ、ペンギン、エミウ、トカゲ、カメの手骨格の比較図。動物

の飛行、遊泳、歩行などによる進化(応化)による骨格の変異を比較している。

第十一図版は人、ゴリラ、ギボン、カンガルーの骨盤の比較図とトビネズミ、カンガルー、フタユビナマケモノ、ワシの足骨格の比較図と魚類の前肢帯などがある。人やゴリラなどの有胎盤類とカンガルー(有袋目)などの無胎盤類の骨盤構成の図示である。すなわち、骨盤腔の大小がはっきり分る。

以上の他に背柱や胸郭の比較図などがある。

(横浜市)